

事業所名

放課後デイサービスえ〜る

支援プログラム

作成日

令和 7 年

2 月

21 日

法人（事業所）理念		子どもとその家族に寄り添い、生きる力を育てる。つながりを大事にし、職員も共に育ち、大空に羽ばたいていく子ども達を応援する。							
支援方針		子どもを中心に、安心、安全に学べるように支援する。個別支援を核とし、集団の中でも自分を大事にできるように育ちを見守る。							
営業時間		平日	9 時 30 分	から	18 時 30 分	送迎実施の有無	あり	なし	
		学校休業日	9 時 0 分	から	18 時 0 分				
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	生活習慣:衣服の調整、歯磨き指導、口の体操などの基本的な生活習慣の学習と定着。季節の行事や生活の中に根付いてきた、伝統を伝えていく。 健康:体力測定。調理実習や野菜作りを通して、食べられるものを増やす。おやつにも噛む練習になる物や、家庭では食べられなくなっているものを出すようにしている。							
	運動・感覚	感覚遊び:粘土遊び、土いじり、川遊び、海遊びなどの触覚の過敏さや鈍感さにアプローチする。ハンモックやブランコ、バランスボールなどでのバランス感覚の発達を促す。 粗大運動:バランスチェアーや正座を取り入れて、体幹の安定を図り、文字の書きやすさなどの改善を図る。転がしドッジボール、わらべ歌遊び、縄跳び、相撲、ボール投げ、水泳、など、小集団でダイナミックに遊び、体の使い方と人との協調性を育む。 巧緻動作:豆つかみやビーズ細工、折り紙など、手の細かな作業をする。							
	認知・行動	視覚訓練:パソコンや玉転がしなどを使用して、眼球運動の改善や繰り返しプリント学習等を通して、空間認知、目と手の協調性などの発達を促す。 行動:空間関係や、ボディイメージの学習をする事で、人や物との距離感を感じや体験として実感し、適切な距離感を持った行動様式を学ぶ。焚き火では、火の安全な使い方を学ぶと共に火の持つ特性、特に温かさを感じてリラックスする。調理は、材料の選別から計量、切る、煮るなど一つ一つの工程を学び、面倒なことでもその工程を経てこそ、形になること、積み重ねることの大切さを学ぶ							
	言語コミュニケーション	話し合い活動:休業日にすることを毎回話し合い、実行することで連帯感やまとまりが出てきている。書記や司会をし、書くこと、話すこと、対話することを学んでいる。 ジェスチャーで身振り言語、カードで言葉作り、なぞなぞなど、多彩な言語のプログラムを実施している。							
	人間関係社会性	集団遊びを通して、競争、協調、距離、共感などの人間関係の基本を体感、経験していきます。年齢が上がると技術として学べるように支援します。 バスに乗っての買い物学習、職場見学、など、地域に出ていき、マナー等学びます。							
家族支援		モニタリング:1月に1回最低でも6か月に1回保護者の方と面談します。年齢が上がると子ども本人とプログラムの目標や支援内容などについて話をします。お互いに確認し合い、プログラムを一緒に作りあげるように心がけています。 相談:随時、本人や保護者から相談を受け付けています。電話や送迎時が多いですが、事業所や、家庭訪問してじっくり話を聞く事もします。幅広い内容ですが、時には兄弟児の相談や悩みが出ることも多いです。			移行支援		年齢が上がると、友達との関わりを求めるようになっていくので、子どもの精神発達に合わせて終了して、地域で生活できるように促していく。		
地域支援・地域連携		事業所との担当者会議に不定期に参加。地区のネットワーク会議に不定期に参加し、事業所間の情報共有に努めている。日々の送迎時に学校と利用児の情報交換なども実施している。			職員の質の向上		月に二回の支援会議と職員会議。月に一回の勉強会。年に数回の外部研修。その報告会など、職員の知識や技術の向上に努めている。		
主な行事等		年に数回の保護者交流会。親子レクリエーション。年に一回の親子餅つき。夏休みの親子遠足など。							